

# 「安い・早い・軽い」を武器に

## 工法の垣根超え非住宅木造を推進

ポラテック・三井ホームコンポーネント 共同セミナー



植竹 本部長



北大路 専務

ポラテック（埼玉県越谷市、中内晃次郎社長）と三井ホームコンポーネント（東京都、渡部一廣社長）は7月31日、東京都内で共同セミナーを開き、97社150人が参加した。「在来軸組十ツ一パイフォー」中大規模木造建築の主流へ」と題し、両工法の枠を超え、木造関係業者が一丸となって非住宅物件の建設を進めていこうとするもの。

両社ともに、これまでの中大規模木造に対する取り組みや、建設に必要となる独自の技術を紹介。軸組十ツ一4屋根トラス、軸組の

高倍率壁十ツ四、2×4壁十軸組屋根トラスなど、両工法の組み合わせによる建設が可能であることを示唆した。

ポラテックの北大路康信専務は「市場の非住宅物件のうち老健施設が40%と大きい割合を占めている。日本の人口1億2500万人に対して新設住宅が100万戸近く建っていることが不思議で、今後は50万戸に向けて減っていくはず。そうなること、S造やRCの建

設需要を木造に置き換えていくしか先の見通しが立たず、木造工法の壁を超えて連携するしかない。木造の3つのキーワードは、安い・早い・軽い」で、この優位性を持って広げていきたい」と語った。

また三井ホームコンポーネントの植竹孝広取締役本部長は「2010年に公共建築物等木材利用促進法が施行されたが、実際に建築されている公共物件では大断面集成材の利用が多い。今回の軸組と2×4の連携などで、ウハウウを持ち寄れば、公共建築にも参入できるはずだ」と話した。